



전세계특허검색

yoonpat



서비스 검색부가기능 | 자료실 고객센터

기본검색

필드검색

번호검색

STEP검색

통합검색

다자민검색 분석등 Thin:leaf

상세보기

WIPS Patent Search



Full Text Download



마이플더저장



마이플더보기

INPADOC 문서보기



원문보기

(54) O/W-TYPE EMULSION COSMETIC

본 출원인의
동일 기술분야 특허

- (19) 국가 (Country): JP (Japan)
- (11) 공개번호 (Publication Number): 1992-279509 (1992.10.05)
▶ [현재진행상태보기](#)
- (13) 문헌종류 (Kind of Document): A (Unexamined Publication)
- (21) 출원번호 (Application Number): 1991-041871 (1991.03.07)
- (75) 발명자 (Inventor): HAYASHI TADANOBU
- (73) 출원인 (Assignee): KOSE CORP.
대표출원인명: KOSE CORP (A02477)

▶ [日本語/한글\(JP\)](#)

- (57) 요약 (Abstract): PURPOSE: To obtain an O/W-type emulsion cosmetic having a specific viscosity and excellent spreadability on the skin and aging stability by compounding specific amounts of xanthan gum and/or locust bean gum and iota-carrageenan.


CONSTITUTION: The O/W-type emulsion cosmetic has a static viscosity of 5,000-35,000cp at 25°C and contains (A) 0.2-1.5wt.% (especially 0.3-0.8wt.%) of xanthan gum (a gum having a molecular weight of $\geq 1,000,000$ and a structure obtained by bonding two mols of D-mannose and one mol of Na, K or Ca salt of D-glucuronic acid to the side chain of a main chain composed of 1,4-bonded β -D-glycol, e.g. keltrol) and/or locust bean gum (a neutral polysaccharide composed of galactose and mannose and produced by purifying and pulverizing the albumen of the fruit stone of carob tree, e.g. neosoft L) and (B) 0.2-1.0wt.% (especially 0.4-0.8wt.%) of iota-carrageenan (e.g. genuvisco JJ). The cosmetic has new characteristics to exhibit elasticity and semifluidity in stationary state.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&JPIO

- (51) 국제특허분류 (IPC): A61K-007/00

- FI: -
- (30) 우선권번호 (Priority Number): -
- 본 특허를 우선권으로 한 특허: -
- WIPS 패밀리

 WIPS 패밀리 보기

 패밀리/법적상태 일괄보기

FullTextDownload

>> **포대군 서비스 신청하기**



고객센터: 02-726-1100 | 팩스: 02-362-1289 | 메일: help@wips.co.kr
Copyright © 1998-2009 WIPS Co., Ltd. All rights reserved.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-279509

(43) 公開日 平成4年(1992)10月5日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/00	J	7327-4C		
	N	7327-4C		

審査請求 未請求 請求項の数1 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平3-41871	(71) 出願人	000145862 株式会社コーセー 東京都中央区日本橋3丁目6番2号
(22) 出願日	平成3年(1991)3月7日	(72) 発明者	林 忠信 東京都北区栄町48番18号 株式会社小林コ ーセー研究所内
		(74) 代理人	弁理士 有賀 三幸 (外2名)

(54) 【発明の名称】 水中油型乳化化粧料

(57) 【要約】

【構成】 次の(A)及び(B)

(A) キサンタンガム及び／又はローカストビーンガム 0.2～1.5重量%

(B) イオタカラギーナン 0.2～1.0重量%

を含有し、25℃における静置時の粘度が5000～35000cpである水中油型乳化化粧料。

【効果】 この水中油型乳化化粧料は、塗布時に優れたのび及び感触を示し、かつ経時安定性が良好なものであ

る。更に、静置時に弾力性及び半流動性を併せもった、従来の化粧料におけるチキソトロピー性とは異なる新たな物理的特性を有するものである。

1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の(A)及び(B)

(A)キサンタンガム及び／又はローカストビーンガム

0.2～1.5重量%

(B)イオタカラギーナン

0.2～1.0重量%

を含有し、25℃における静置時の粘度が5000～35000cpであることを特徴とする水中油型乳化化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、塗布時に滑らかなのび及び優れた感触を示し、かつ経時安定性が良好で、更に従来にはない物理的特性を有する水中油型乳化化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】水中油型乳化化粧料は、連続相が水性成分で構成されているため、軽く滑らかなのびを有し、さっぱり、かつしっとりした感触を付与することができるなど、優れた特徴を有するものである。

【0003】従来、水中油型乳化化粧料には、系の安定性を向上させるため、増粘剤としてカルボキシビニルポリマー、寒天、カラギーナン等の水溶性高分子を配合することが行われている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】基剤中にカルボキシビニルポリマーを配合した場合、さっぱりかつしっとりした感触と適度なゲル強度が得られるが、基剤中に電解質*

(A)キサンタンガム及び／又はローカストビーンガム

0.2～1.5重量%

(B)イオタカラギーナン

0.2～1.0重量%

を含有し、25℃における静置時の粘度が5000～35000cpであることを特徴とする水中油型乳化化粧料を提供するものである。

【0008】本発明の水中油型乳化化粧料は、静置時には高粘度のゲル状であり、外力を加えると粘度が低下して流動性の乳液状となる、いわゆるチキソトロピー性を有するものである。従来の化粧料にもかかるチキソトロピー性を有するものは存在したが、本発明の水中油型乳化化粧料におけるチキソトロピー性は、静置時に弾力性及びある程度の流動性（半流動性）を有するという点で従来と異なる。

【0009】本発明において使用されるキサンタンガムとは、純粋培地発酵工程により *Xanthomonas Campestris* を接種して得られる多糖類であり、 β -D-グルコースの1,4結合からなる主鎖に、二分子のD-マンノースと一分子のD-グルクロン酸のナトリウム、カリウム又はカルシウム塩が側鎖状に結合した構造を有し、分子量が100万以上のものである。具体的には例えばケルトロール（ケルコカンパニー社製）等が挙げられる。

【0010】本発明において使用されるローカストビーンガムとは、カロブ樹の果実の種子の中にある胚乳部分を精製粉末化した中性多糖類であり、ガラクトースとマンノースからなる。具体的には例えばネオソフトL（太陽化学社製）等が挙げられる。

*が存在すると、ゲル構造が破壊されて粘度が低下し経時安定性に問題が生じるため、電解質の配合が困難である。寒天を配合した基剤では、使用時に肌上で均一にのばすことが困難である。また、カラギーナンを配合した基剤では、高温状態において排液現象が生じるため、経時安定性に問題があると共に、使用時に肌上で均一にのばすことが困難である。更に、これらの基剤は通常の乳液状又はゲル状のものであって、外観上特異な物理的性状を有するものではなかった。

【0005】従って、本発明は、肌上でののび及び経時安定性に優れる水中油型乳化化粧料、更には従来の化粧料にはない物理的特性を有する水中油型乳化化粧料を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段及び作用】かかる実情において、本発明者らは上記課題を解決すべく鋭意研究を重ねたところ、キサンタンガム及び／又はローカストビーンガムとイオタカラギーナンを特定量配合した特定粘度の化粧料が、上記要件を満たす物であることを見出し、本発明を完成した。

【0007】すなわち本発明は、次の(A)及び(B)

【0011】キサンタンガムとローカストビーンガムの本発明水中油型乳化化粧料中への合計配合量は0.2～1.5重量%、好ましくは0.3～0.8重量%である。配合量が0.2重量%未満では高温における経時安定性に問題があり、1.5重量%を超えると塗布時にべたつきを感じ、さっぱりかつしっとりした感触が損なわれる。

【0012】キサンタンガムとローカストビーンガムを併用する場合、比率の上で特に制限はないが、キサンタンガムを多く配合した方が、チキソトロピー性が顕著となり好ましい。

【0013】本発明において使用されるイオタカラギーナンとは、紅藻類 *B. Spinosum* から抽出される多糖類であり、3,6-アンヒドロ-D-ガラクトース-2-サルフェートとD-ガラクトース-4-サルフェートが α -(1→3)及び β -(1→4)結合を交互に繰り返した直鎖状のもので、分子量は10万～100万程度である。具体的には例えばゲニユビスコJJ（コペンハーゲン・ベクチンファクトリー社製）等が挙げられる。

【0014】イオタカラギーナンの本発明水中油型乳化化粧料中への配合量は、0.2～1.0重量%、好ましくは0.4～0.8重量%である。0.2重量%未満では弾力性のある形態が得られず、経時安定性に問題がある。1.0重量%を超えると弾力性のある形態は得られるが、塗布時にも流動性を帯びず、スムーズなのびを示さない。

【0015】本発明の水中油型乳化化粧料は、好ましいチキソトロピー性を有するためには、静置時の系の粘度が25℃において5000～35000cpであることが必要である。

【0016】本発明の水中油型乳化化粧料には、上記必須成分の他に、通常化粧品に使用される成分を、本発明の効果を損ねない範囲で適宜選択して配合することができる。このような成分としては、油剤、界面活性剤、多価アルコール、低級アルコール、水溶性高分子、紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、香料、色素、美容成分、

水、有機・無機粉末等が挙げられる。
【0017】本発明の水中油型乳化化粧料は、通常の方法により製造することができ、クリーム、乳液、美容液等の基礎化粧料；ファンデーション等のメーキャップ化粧料；更には頭髪化粧料等に幅広く適用することができる。

【0018】

【実施例】以下、実施例を挙げて更に詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

実施例1

表1に掲げる処方に基づいて各々の基剤を調製し、下記の基準により評価した。

(製造法)

(A) No. 1～8とNo. 14を70℃で加熱溶解混合する。

(B) No. 9～13を70℃で加熱溶解混合する。

(C) (A)に(B)を添加し、70℃で攪拌後、冷却する。

(評価基準)

粘度：25℃においてビスメトロンVG-DA（芝浦システム社製）を用いて測定した。

経時安定性：50℃において1週間保存したときの経時安定性を、外観状態を観察することにより評価した。

○ 変化なし

10 × 変化あり（問題がある）

系の弾力性：静置時における外観状態を観察し、かつ指で触れることにより弾力性の有無を判定した。

系の半流動性：基剤を容器に入れ、該容器を斜めに傾けたとき、基剤がピンロより流れ出るか否かにより判断した。

のびの良さ：10名の専門パネルにより3段階の官能評価を行った。

良い 3点

普通 2点

20 悪い 1点

平均点が2.1以上を○、2.0以下を×とした。

【0019】

【表1】

成 分	本 発 明 品						比 較 品					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
1.イオタカラギーナン	0.5	0.8	0.6	0.9	0.4	0.4	0.8	—	—	—	—	2.1
2.カッパカラギーナン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.5	—
3.キサンタンガム	0.4	0.3	0.6	0.8	—	0.3	—	—	—	—	0.4	0.3
4.ローカストビーンガム	—	—	—	—	0.4	0.2	—	—	—	—	—	—
5.寒天	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	—	—
6.カルボキシビニルポリマー	—	—	—	—	—	—	—	0.1	0.1	—	—	—
7.水酸化ナトリウム	—	—	—	—	—	—	—	0.05	0.05	—	—	—
8.塩化カリウム	—	—	0.05	—	—	—	—	—	0.05	—	—	—
9.プロピレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
10.流動パラフィン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
11.P.O.E.セチルエーテル(10E.O.)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
12.セトステアリルアルコール	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13.香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
14.精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
粘度 (cp, 25°C)	6720	13940	15440	32000	13240	9180	12120	14040	580	21200	2240	49500
経時安定性	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○
系の弾力性	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	なし	なし	あり	なし	あり
系の半流動性	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	なし
のびの良さ	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×
評 価												

【0020】表1より明らかなように、本発明品はいずれも弾力性のある系でありながら、塗布時ののびがよく、使用性に優れ、経時安定性も良好であった。一方、

(成分)

- トリオクタン酸グリセリル
- ポリオキシエチレンソルピタンモノオレエート(20E.O.)
- 香料
- エタノール

比較品はいずれも満足のいくものではなかった。

【0021】実施例2 可溶化型美容液(透明)

(重量%)

- 0.2
- 1.0
- 適量
- 10.0

7	8
5. グリセリン	5.0
6. 乳酸ナトリウム	0.5
7. プロピレングリコール	5.0
8. イオタカラギーナン	0.8
9. キサンタンガム	0.2
10. 精製水	残量

(製造法)

(A) No. 5～10を70℃で加熱溶解する。

(B) (A)を室温まで冷却後、No. 1～4の混合物を添加し、均一に攪拌して可溶化し、美容液を得る。

得られた可溶化型美容液は、静置時には弾力性と半流動*

*性を併せもち、肌に塗布する際に振とうすると流動性となり、さっぱりかつしっとりした感触で肌上でスムーズにのびるなど使用感に優れ、かつ経時安定性にも優れるものである。

10

【0022】実施例3 乳化型ファンデーション

(成分)	(重量%)
1. ステアリン酸	1.0
2. セトステアリルアルコール	0.8
3. ポリオキシエチレンソルビタンモノオレエート(20E.0.)	1.5
4. 流動パラフィン	20.0
5. 酸化チタン	9.0
6. 着色顔料	2.0
7. レシチン	0.3
8. プロピレングリコール	10.0
9. イオタカラギーナン	0.6
10. キサンタンガム	0.3
11. 香料	適量
12. トリエタノールアミン	1.0
13. 精製水	残量

(製造法)

(A) No. 1～4を70℃で加熱溶解する。

(B) No. 5～13を70℃で加熱溶解し、これを(A)に添加して転相乳化する。

(C) (B)を冷却し、乳化型ファンデーションを得る。

得られた乳化型ファンデーションは、静置時には弾力性と半流動性を併せもち、塗布時に振とうすると流動性となり、肌上でのびがスムーズで使用感に優れ、粉体等の沈降がみられず経時安定性も良好である。

【0023】

【発明の効果】本発明の水中油型乳化化粧料は、(1) 高

30

温においても経時安定性が良好である。また、静置時には弾力性のある形態であるため、配合される粉体、カプセル等を安定に維持できる。

(2) 塗布時には外力を加えると粘度が低下しスムーズな伸びを示し、さっぱりかつしっとりとしていて使用感に優れている。

(3) 静置状態において弾力性及び半流動性を有するという、従来の化粧料におけるチキソトロピー性とは異なる新規な特性を有する化粧料であり、外観上の面白さを有するものである。